



学校教育目標 かしこく たくましく 心豊かな 児童の育成
目指す児童像 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

令和5年8月29日号
家庭数配付

鈴谷小だより

令和5年度 第5号

鈴谷小Webページアドレス

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

<https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>



心を通わす

校長 中田 清人

7月の半ばのことです。朝、私が学校の北側で旗振りをしていると、少しご高齢の女性に声をかけられました。

「鈴谷小学校のお子さんに、助けてもらったんです。」

その数日前に、道に迷って困っていたこの女性に、「一緒に行きましょうか」と優しく声をかけてくれた子がいたそうです。「どうして名前を聞かなかったのかしら」としきりに悔やんでいらっしゃいましたが、この女性はとてもうれしかったと見え、わざわざ私に伝えに来てくれたのです。

人と人の心の交流は、たとえさりげないものでも、とてもうれしいものです。私は、このような優しい心もち、困っている人に進んで声をかけるという実践力をもった子が鈴谷小学校にいることに、大変うれしい気持ちになりました。また、わざわざ私に知らせに来てくださったこの女性にも、感謝の気持ちをもちました。

「この人には安心して接することができる」「この人と一緒にいると落ち着く」という安心感は、社会や組織で生きていく上で欠かせないものです。そして、こうした安心感を醸成することにつながるのが、「あいさつ」等に始まる心の交流だと思います。

私は、毎朝、子ども達とあいさつして目が合うと、「ああ、心が通ったな」と感じてうれしくなります。それは、「おはようございます」でも「さようなら」でも、「じゃんけん、ポン」でも何でもいいんです。心が通うと、その子の一日の、または次の日の幸せを願わずにはいられません。私は、特に信心深いわけではありませんが、そんなときは、自然と「どうか、この子が素敵な一日を過ごせますように」、「どうか、明日も元気で登校できますように」と祈る自分に気付くのです。

時に我々は、大切なことの意味や理由は語らず、方法だけを誰かにさせようとすることがあります。例えば、入門期の落語家は、修行の一環として師匠の家の床を磨いたり、掃除をしたりすることがあるそうです。そして、何のためにそれをしなければならないかについては、誰もその理由を教えてくれません。修行者が自分でたどり着かなければならない境地なのです。これは、修行という極めて特殊な環境下における必要なステップであり、日本の芸能文化の、修行の尊さでもあるのでしょう。また、それを貫いて修行をやり遂げるには相当の覚悟が必要です。

しかし、あいさつのように一般性がある、主体性が非常に大切な場合には（修行に主体性が不必要と言っているわけではありません。）、なぜそれが必要なのか納得させてあげた方が効果的であるように思います。もしかしたら「あいさつ」などは、我々にとって、あまりに日常的なために、また、経験的にその重要性を分かっているために、そもそもの目的を語らないことの典型かもしれませんね。

あいさつは「こんなに気持ちのいいことなんだよ」「あなたが生きていく上でとても大切なことなんだよ」ということを、子ども達には知ってもらいたい。ですから、私は、「心を通わすために、あいさつをしましょう。」と、「方法（あいさつする）」だけでなく、「目的（心を通わすため）」についても子ども達には語るようにしています。